

潮騒

ほうべの創世記

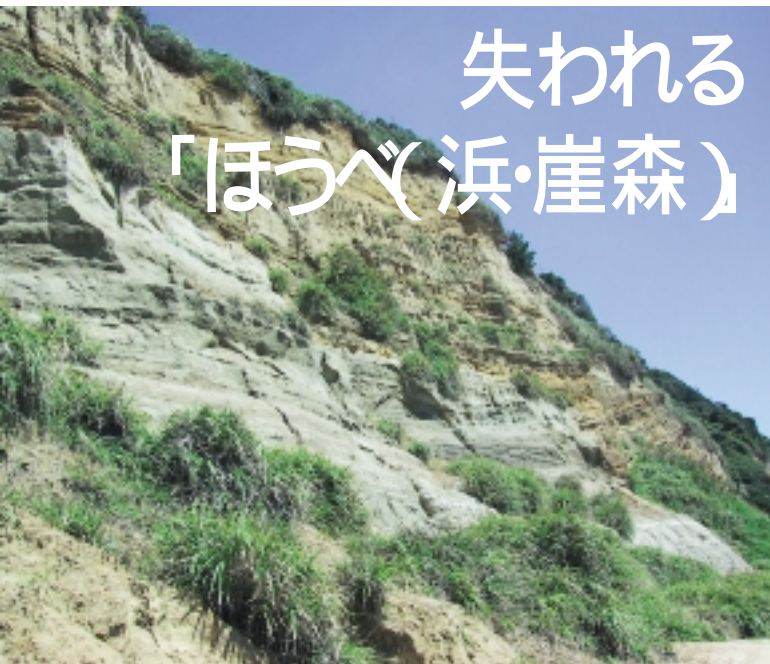
渥美半島付近は、日本列島を南から北へ押し上げるフィリピン海プレートの力によって、東西に細長く隆起し、カマボコ形した台地を形成しました。柔らかい地層で形成された大地の南半分(太平洋側)は、波の侵食や地震等による崩壊で削り取られ、50m以上の高い崖になっています。

現在でも海岸線の後退が続いており、年間1m程度の陸地が崩落して、太平洋の荒波に呑み込まれています。陸地の崩落は、ほうべ(海沿いの崖)に根付いた豊かな自然だけでなく、表浜の文化や伝統までも流失させてしまいます。



目次 CONTENTS

- 特集「表浜の自然」..... P.1~4
- 表浜むかし話「一本木の狐」..... P.5
- 協議会活動報告..... P.6
- 表浜写真館 平成13年度事業計画..... P.7



渥美半島の台地は、今から60万年から2万年前ほど前に、主に天竜川方面から沿岸流で運ばれた砂礫が浅い海底に堆積し、その後の隆起で形成されました。まだ固まっていない柔らかいまみ砂の地層は、台風時の激しい風雨や、高波による浸食や地震による崩壊にさらされ、現在の崖を形づくり、今なお後退し続けています。

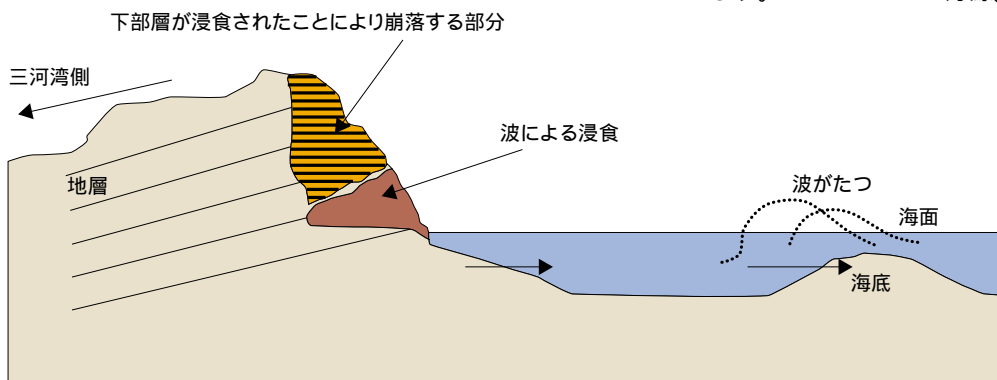
ほうべは平然としているように見えますが、実は悲鳴をあげ続けているのです。

ほうべの海食(浸食)

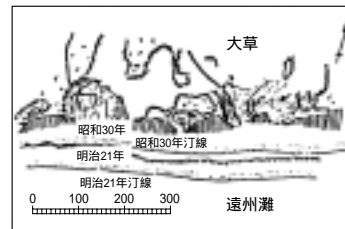
太平洋岸の崖は、雨水や波浪によって常に浸食を受け、地震や津波の際には激しく崩落してきました。汀線も、佐久間ダムの建設に伴って、天竜川から供給される土砂が減少し、近年後退が顕著になっています。

国土地理院発行の2万5千分の1の地形図を比較すると、次のような海岸線の変化が見られます。

大正7年から昭和63年の70年間に、六連の久美原から大草の半身まで太平洋岸の崖の崩落が確認でき、100mも崖が後退した地区も見られました。また、昭和44年と昭和63年の間に、百々から南神戸にかけての海岸線は砂浜が流出して、汀線が後退しています。汀線(ていせん)/海面と岸とが接する線



大草地区の海岸浸食状況



ほうべを守る

海岸保全施設は、田原海岸を除き離岸堤工事が主となりつつあります。田原海岸のように砂浜が狭い個所では、始めに崖部の根固めとして傾斜堤(護岸)工事を行い、次に離岸堤の整備に移ります。現在、田原海岸(8,530m)では、3,162mが完了しています。

台風や地震などによって崩壊、又は荒れた斜面を元の豊かな森や傾斜地に戻すため治山事業が行われます。現在、田原海岸では約1,200mが完了しています。



昔のほうべ



(全く雑木などが自生していないほうべ)昭和10年代に撮影



(浜・崖を失いつつあるほうべ)H13.8月撮影

出典 / 「東三河 大地のなりたち」 菅谷義之著昭和59年6月発行所 鳳来寺山自然科学博物館発行

ほうべは、昔から私達を見守ってくれていた大切な場所であり、自然に触れ合うことのできる貴重な場所です。ほうべに関わりのある4名の方々に、お話を聞いてみました。

自然を学ぶ



大草校区 大草小学校の子供たち

自然環境の破壊が進むにつれ、地球環境のバランスは失われつつあります。大草の自然も例外ではありません。過去の自然を学び、私達にできることを考え、限りある自然のあり方を学習していきたいと思ひます。

ほうべの思い出



六連校区
河合茂秋
(65歳)

東南海地震(S19)や三河地震(S20)が発生するまでは、ほうべは緩やかな傾斜地でした。でも、今はその面影がありません。や(崖)を駆け回り、背の高い黒松林が生い茂るほうべには、あけび・シイの実・ぐみの実がたくさん有りました。キツネ・ウサギもいました。できることなら、私の孫達にも当時の景色を見せたいものです。

生活への影響(3度の屋敷替え)



神戸校区
福井嘉之
(73歳)

私の先々代は、明治の始めまで崖森の海側に屋敷を構えていました。しかし、度重なる自然災害で崖は崩落し、やむを得ず50m程内陸に入った所に屋敷を建て直しましたが、台風の猛威は、ほうべを簡単に飛び越え屋根を吹き飛ばしていきました。私達の家族は、より安全な現在の場所に移り住みましたが、昔と今では約200mも内陸に入っています。

ほうべの恵み(塩づくり)



東部校区
鈴木喜次郎
(90歳)

東部小学校では、児童の健康状態を保つため戦前から味噌汁だけの給食を始めていました。終戦後は、味噌の原料になる塩が手に入り難く、先生や児童が表浜に出向いて、とても美味いとは言えない塩を作りながら給食を続けていました。今思えば、自然の恵みがなければ生きていけなかったと思います。

崖森の将来(中西 正)

崖森 表浜の海岸林

空からの目

宇宙衛星「ランドサット」が撮った渥美半島はしなやかに西へ伸びている。海岸線は、多少のカーブを含みながらの直線で、誠に小気味よい。良く見ると、陸側には緑の帯があり、海岸線は白く刃物の刃のようにも見える。

飛行機からの空中写真になると、地形がはっきりし土地利用の様子も見てとれる。海岸線沿いの緑は森の帯だった。この帯と畑の境がくっきりしている。生き物にとって、この境は重要な意味を持つ。森と畑、池と陸、海と陸の境は、いずれも生き物にとっては重要な場所である。

近くに見る森

間近に見る森は、木々が多く密生している。それらは、冬でも葉を落すことがない植物 - 常緑樹 - が多い。クロマツが多く見られた時代もあったが、現在ではクロマツを見るのは稀であり、ほとんどが葉の多い広葉樹である。タブノキ・ヤブニッケイ・シロダモなどで、その葉の表面はワックスが塗られたように艶があり、春先の芽生えの 때가特に顕著で、照葉樹林と呼んでいる。シイノキもこの仲間であり、海岸林に混じって生えている。しかし、神社の森(鎮守の森)には、より多くのシイノキが見られる。神社の森はシイノキ群落であり、海岸林はタブノキ群落といえる。



照葉樹林が結ぶ文化



タブノキ群落



シロダモ

照葉樹について二つ述べよう。自然を放置すると変化(遷移)する。畑を放置すれば草だらけになり、それを放置すると強い草になって、そこには木すら生えるようになる。やがて、それらの木は森を形成する。その森はマツ林であることが多いが、これは長続きせず、やがてタブノキやシイノキの林に変化する。マツは林の下で芽生えることはないが、タブノキやシイノキは暗い林の下で芽生えることができ、枯れたタブノキの跡をタブノキが埋めることができる。このため、タブノキ林やシイノキ林は安定している。渥美半島の本来の自然は、この森と考えられている。その本来の自然は社寺林に残っているが面積も小さい。それが、ここには広く見られる。

我々の潜在的な文化は、この照葉樹林に影響されている。照葉樹林は日本から中国東南部を経て、ヒマラヤ山麓にまで広がっている。そして、この地域に共通の文化があり、これを照葉樹林文化と呼んでいる。日本とネパール、ブータンは良く似た文化を持っているという。



シイノキ群落 / 鎮守の森



ヤブニッケイ

[ほうべの自然]

海岸寄りの海岸林は木の丈が低くなり、樹種も変わり変質する。ハマヒサカキ、シャリンバイ、マツが風の流れの形 - 風衝樹形 - になる。まるで髪の毛を櫛で梳いたようである。場所によっては、ハチジョウススキ、ヤブソテツ、ツツブキなどの草原になっている。海岸には、こんな草原が発達する地方も多い。しかし、ここでは局部的でしかない。これは根を張る地質がもろく、次々と浸食されていくためではないだろうか。海に面した崖は、その上部が赤い地質を露出し、下部が小礫を交えたもろそうな地層である。しかし、10m・20mと峻立する崖と、そこに根付く緑は見事である。地形という自然があって、そこに生きようとする植物群落、浸食しようとする風雨の攻めぎ合いの姿が「ほうべ」に表れている。

[憧れ]

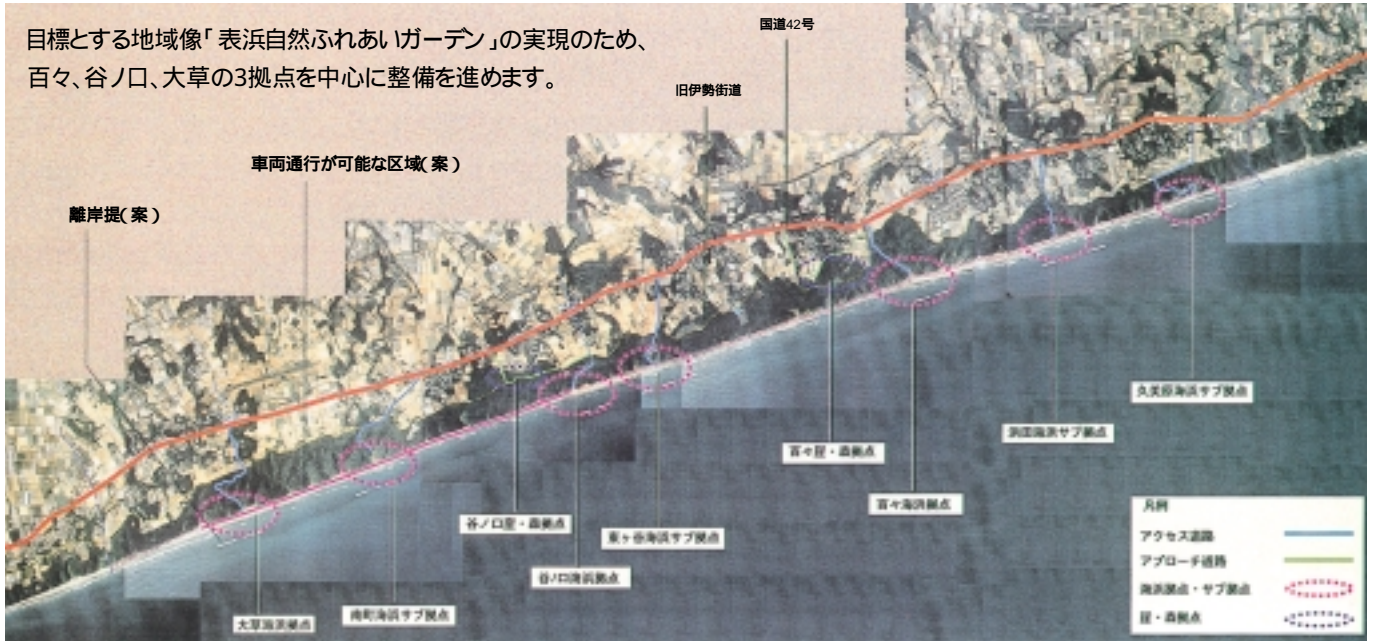
外から表浜海岸を訪れる人は、海岸に出る前に「ほうべ」の高台に立つことが多い。そこからの景色は雄大で、海岸林・風衝樹形・崖が目に入る。そして、眼下にウミガメが訪れる砂浜が伸びる。その向こうには太平洋が広がる。180度の海、そして天と海を分ける水平線が見えている。

海岸に下りると、波打ち際に走り寄り。そして海水に足を浸したくなる。それが夕方なら夕陽にしばし見とれる。海岸林を背後に置き去り、海と面する。自然に現れるこの行動は人間の本能のようだ。

「ここは人間性を回復させる場所とも言える。ふるさとの自然、ヒマラヤ山麓との関連、野生地域、癒しの地と色々な意味合いや重要性を含む海岸とその林。その良さを感じる人が増えると、この自然はもっと輝きを増すのではないだろうか。」

自然と人間が共存する崖森エリアのプラン (太平洋岸地域整備基本計画)

目標とする地域像「表浜自然ふれあいガーデン」の実現のため、百々、谷ノ口、大草の3拠点を中心に整備を進めます。



大草拠点地区(全体イメージ)

整備計画のプラン内容
海浜部:健康海浜、自然保護・観察



谷ノ口拠点地区(全体イメージ)

整備計画のプラン内容
海浜部:健康海浜、自然保護・観察、農漁業体験
崖森部:自然保護観察、自然体験の森
保養療養、農漁業体験



百々拠点地区(全体イメージ)

整備計画のプラン内容
海浜部:健康海浜、自然保護・観察、農漁業体験
崖森部:自然保護観察、自然体験の森
保養療養、農漁業体験

自然と人間が共存するほうへのあり方 (太平洋岸地域整備基本計画)

「表浜自然ふれあいガーデン」(海と森と農村における「人と自然」、「人と人」のふれあいの庭)を実現させるためには、ソフト事業先行型の事業展開と多様な整備手法の活用が不可欠です。

自然としての価値を確認した上で、豊かな自然環境を望む施設の立地や住民の憩いの場とするなど、表浜の多面的な価値を見直し、自然と地域の融和を目指す必要があります。

太平洋岸の地域資源を有効に活用し、地域住民をはじめ、県や役場等が連携し合い、活動の輪を広げることがますます望まれます。



静岡県新居町 沿岸森林

(事例紹介)

平坦な森林地域では、飛砂防備や潮害防備の松林が整備され、森林の機能に支障がない範囲で、保健やレクリエーションの場として利用されています。

傾斜地の森林は、ゴミ捨て場として利用していた時代もありましたが、今では土地の形状に応じた教育施設や福祉保健施設などの整備が進められています。



「一本木の狐」

山田もと

遠州灘の波の音が、ほうべの森を通して間近に聞こえる大草から東の方一帯は、つい三、四十年前までは、背の低い松や雑木のまばらな赤土の原っぱでした。だから地名さえ平松です。

この平松原の中を、ほうべに沿って通る道と、大草志田から上ってきた道の三叉路に、大きな女松(赤松)が一本だけ傘を広げたように立っていました。根元は大人の一抱えにも余る太さで、二メートル程の所から太い枝や細い枝が入り組んで、まこと傘を広げた格好でした。

鳥は巣を作り、畑の近い人は大根やそば等を掛けて干したり、雨宿りしたり、夏は日陰で昼寝もしました。この辺りを土地の人は一本木と言っていました。

ここには昔から狐が棲んでいて、夜になると人をばかしたそうです。浜の地引網に出ている誰それさ、酒を飲んでの帰り、立派な風呂に入れてもらったと思ったら、肥溜めの中だったげえな。とか、坂上の誰とやらは、浜で買った大鱗を盗られたげえな。とか、嫁入りの御馳走などは、いくらしっかり持っても、一本木を突っ切らぬうちに無くなってしまいうげえな。とか…。

子ども達は、はったけ取りによく一本木へ行ったものですが、山へ入る前に皆で

あかの昼間のどん狐一人をばかすと子を取るぞー

って、この木の下で大きな声で歌ってから山へ入ったものです。狐はこの声を聞くと、子ども達をばかさないのでそうです。

松茸には巡り合えないが、少し低みの雑木の下には、「ねずみ茸」や「初茸」「足長ばったけ」「ぬめり茸」等があって、それを探して遊ぶのが楽しみでした。

ある日、一本木の小松原に、めったにない「ろうじ茸」が行列を作って生えていたんです。

「こんねんあるとは知らなんだなあ。」

「箆を持ってくと良かったよね。」

皆大喜びで採って、箆に通したり着物を脱いで包んだりして帰りました。この沢山の「ろうじ茸」を見た、安ぞうさのおばあさんは、

「昔から、こんねにたあへんな「ろうじ茸」はあったためしがないだ。こやぎと、一本木の古狐がばかしとるに違いないだ。」と言い出したんです。

「そんなことあるもんか。」

子ども達は、折ってみたり引つ繰り返してみたりしましたが、「ろうじ茸」は「ろうじ茸」、なんの変わったこともありません。「ええあんばいに、狐退治をしてくれようぞ。」

おばあさんは大釜にぐらぐら湯を沸かして、その中へ「ろうじ茸」を放り込みました。今に狐が、コーンコーンと泣いて飛び出して来るかと、皆でかたずを飲んで待っていました。が、「ろうじ茸」はぐつぐつ煮えても、とんと狐は出てござらなんだと。



イラスト / 石川棟密

豊川用水の工事が始まりました。「一本木の辺りが畑になるだけえな。」

「あの一本木の松を残してくれやあええけど。」

ブルドーザーがものすごい勢いで、松や雑木を引つ繰り返して、小高い所は削り、谷は埋めて赤土の広場にしてしまいました。しまいまで残されていた、あの一本木の女松も、皆の心配をよそに切り倒されてしまいました。

「はい、あそこにおった狐はどうしたずらか。」

「ほうべの穴へでも逃げやあええけどのん。」

やっぱり狐のことも心配でした。

今はこの辺り、高い土手の上を豊川用水が流れ、この平松から神戸、六連の方まで見渡す限り畑になって、キャベツ、白菜、ブロッコリーなどが栽培され、ハウストンネルの中には、時ならぬ野菜やメロンが育っています。狐が三匹も生まれ育った一本木の切り株も、埋められたのか腐ってしまったのか、いつの間にやら見えなくなりました。

狐はどこへ行ってしまったのでしょうか。夕方になっても、鳴き声も聞かれなくなり、この頃はばかされたという話も、とんと聞かなくなりました。

「みんなで考え・行動する地域づくり」が 田原町太平洋岸総合整備促進協議会の活動姿勢です。

それぞれの地区に存在する自然、文化や歴史などを生かすとともに、個性的な機能の連携を図ることにより魅力的な地域が形成されるものと思います。

新世紀を迎え地域を取り巻く社会環境は日々変化しており、同時に自然環境も崩壊しつつあります。本協議会では、潤いと安らぎのある快適な生活環境や空間を創出するため、自然環境に配慮した公園や交流拠点の整備等に努めるとともに、新世紀に相応しい環境整備を目指していきたくと思います。

田原町太平洋岸総合整備促進協議会
会長 **渥美博孝**

協議会活動の経過

- H8.1 ...協議会発足
- H8.3沿岸部に関する地元要望作成
- H9.3 ...基本構想「サングリーン21」策定
 - 方向性
 - ・自然環境の保全と活用
 - ・農業基盤、農村環境の整備
 - ・観光・レクリエーション施設の整備
 - ・幹線道路の整備
- 展 開
 - ・太平洋岸の魅力を発信するイベントの開催
 - ・海浜・崖森・農地エリアのエリア別の整備促進
 - ・渥美半島全体の連絡調整
 - ・関係機関への要望運動等の展開
- H9.11 ...専門部会設置
- H10.3海浜・崖森エリアの基本計画策定
- H10.10農地エリア整備の地元検討書作成
- H10.11...第1回表浜自然ふれあいフェスティバル開催
- H11.10...第2回表浜自然ふれあいフェスティバル開催
- H12.11...第3回表浜自然ふれあいフェスティバル開催

協議会組織 (平成13年8月現在)

- 役員
 - 会 長 渥美博孝(神戸校区総代)
 - 副会長 竹内秀夫(大草校区総代)、高橋昭好(東部校区総代)、高津貴康(六連校区総代)
- 委員
 - 町議会議員 大羽敏、河辺正男、彦坂雄三、富田秀穂、多田辰郎、伊与田知養、川口治吉
 - 漁業関係者 富田正和(神戸漁業協同組合長)、大河豊志(六連漁業協同組合長)、廣中一盛(神戸漁業協同組合)
 - 町農業委員 福井義信、鈴木敏夫、西山作、安田和司
 - 役場関係者 川口保夫(助役)、鈴木啓之(教育長)、河辺光明(経済部長)、鶴飼正彦(建設部長)、金田信芳(都市整備部長)
- 顧問 白井孝市(田原町長)、鈴木愿(愛知県議会議員)、岡本勝(JA愛知みなみ農業協同組合代表理事副組合長)
- 事務局 田原町役場総務部(企画室) 菰田稀一(総務部長)

表浜自然ふれあいガーデン 実現に向けての動き

(平成10年3月策定の海浜・崖森エリアの基本計画)

多額な費用を要する海岸保全事業の継続的な実施には、国土保全・防災面に加え、表浜海岸の持つ多面的価値の創造を行い、投資効果の向上を図る必要があります。

ハード事業

- 海岸整備(県事業)
 - 海岸保全事業(傾斜護岸):大草海岸
 - 海岸治山事業:南神戸、東神戸、六連
 - 海岸防災林造成事業:六連
- 拠点地区の整備促進(町事業)
 - 海岸公衆便所建設:谷ノ口海岸(H9整備済)、大草海岸(H10整備済)、百々海岸(H11整備済)、東ヶ谷海岸(H13整備中)
 - 海岸駐車場:大草海岸駐車場(H11整備済)、百々海岸(H12整備済)

ソフト事業

- 表浜自然ふれあいフェスティバル(協議会事業)
 - メイン会場:H10谷ノ口海岸、H11大草海岸、H12百々海岸、H13東ヶ谷海岸
- 表浜のレクリエーション利用(町教育委員会)
 - 健康ウォーキング大会:H10神戸海岸、H11大草海岸、H13六連校区内(予定)



表浜ウォーキング大会
町教育委員会主催(H11大草海岸)

農地エリアの整備 実現に向けての動き

道路・排水・農地区画・ため池などの農業基盤に加え、集落環境を含め総合的な整備促進を図ります。

- ソフト事業
 - 農地基盤に関する実態調査(町事業)
 - 農地基盤再整備に関する調査:H11表浜全域
- ハード事業
 - 農村・農地の整備(町事業)
 - 農村総合整備事業:H11~神戸地区

表浜写真館

Omotehama Photo Gallery

君達の「ふるさと」は守るからね。



作品介绍「大草海岸で星を見る会(ウミガメ放流)」平成13年8月撮影

平成13年度の事業計画

主催事業

第4回表浜自然ふれあいフェスティバル

日時 平成13年10月27日(土)AM9:00~PM1:00頃

悪天候の場合は11月18日(日)に延期

場所 表浜一帯(メイン会場は東ヶ谷海岸)

内容 清掃活動、地引網、ビーチフラッグス、太鼓演奏ほか

目的 表浜の良さ、浸食等の現状を広く知らせ海岸整備の促進を図る。

推進事業

- ・海岸保全施設の整備:愛知県土木部
- ・海岸治山事業:愛知県東三河事務所
- ・海岸公衆便所の整備[東ヶ谷海岸]:田原町経済部商工課
- ・海岸進入道路の整備[東ヶ谷海岸]:田原町建設部土木課
- ・農村総合整備事業[神戸地区]:田原町経済部農政課

第3回表浜自然ふれあいフェスティバル

昨年
開催

平成12年10月28日(土)午前9時から表浜海岸全域でゴミを拾ったあと、大漁旗と横断幕が飾り付けられた百々海岸に1,000人が集合し、ビーチフラッグス、石焼イモ、潮騒鍋、黒潮太鼓の演奏が行われました。



表浜情報誌「潮騒」や「協議会事業」に関するご意見・ご要望・ご感想をお寄せ下さい。

発行:〒441 3492 愛知県渥美郡田原町大字田原字南番場30番地1 TEL0531 23 3507 田原町太平洋岸総合整備促進協議会(事務局:田原町役場企画室内)